


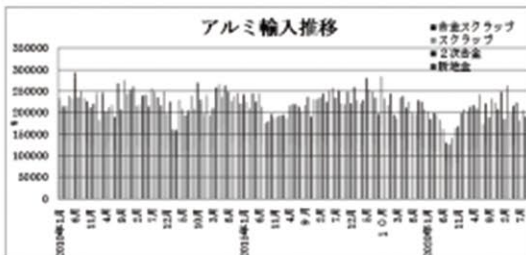
銅・アルミレポート

橋本アルミ株式会社取締役
橋本 健一郎



10月のアルミ概況および11月の見通し (3)

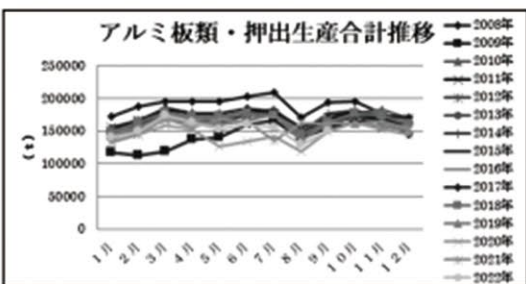
アルミ輸入推移



出典 財務省 貿易統計

【アルミ圧延・押出品生産数】

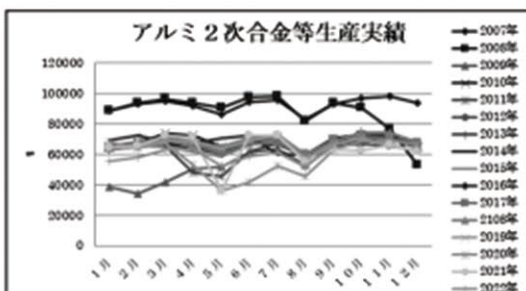
日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比-7%、14万9,973 t。6か月連続のマイナス。



出典 日本アルミニウム協会

【アルミニウム2次合金 同合金地金等生産実績】

前年比 +5.8% 6万6472 t 13か月ぶりプラス
出荷 +5.9% 6万7673 t 13か月ぶりプラス



出典 日本アルミニウム合金協会

日刊金属

外電配信料
(税込)

6 ヵ月:46,200円

12 ヵ月:92,400円

■国内概況まとめ

【自動車】【自動車生産】

生産動態統計によると9月の自動車生産台数は前年比+79.3%の71万3,626台。輸出は前年同月比+87.6%の34万4,807台。

【自動車販売】

日本自動車販売協会連合会によると10月の自動車販売台数(軽除く)は前年比+19.7%の21万1,542台。内訳は乗用車が+23.6%、貨物が-2.9%、バスは-8.4%。

【住宅着工戸数】

9月の新設住宅着工は、持家は減少したが、貸家及び分譲住宅が増加したため、全体で前年同月比1.0%の増加となった。また、季節調整済年率換算値では前月比5.1%の減少となった。

○新設住宅着工戸数は73,920戸。前年同月比1.0%増、2か月連続の増加。

○新設住宅着工床面積は5,844千㎡。前年同月比 2.8%減、先月の増加から再びの減少。

○季節調整済年率換算値では857千戸。前月比5.1%減、先月の増加から再びの減少。

【アルミ圧延・押出品生産数】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は前年比-7%の14万9,973 tで6か月連続マイナス。

板類は、9万3601 tで-5%、5か月連続マイナス。

押出類は、5万6372 tで-6%、9か月連続マイナス。

【アルミニウム2次合金 同合金地金等生産実績】

前年比は、+5.8%の6万6,472 tで13か月ぶりプラス。

出荷は、+5.9%の6万7,673 tで13か月ぶりプラス。

【輸出】

新地金は-38.4%の93 t、2次合金は-24.6%の1,786 t、スクラップは+34.3%の3万6,350t、アルミ缶は-9.5%の7,054 t。

【輸入】

新地金は+0.8%の10万4,846 t、二次合金は+0.9%の8万5,765 t、スクラップは+49.4%の698 t、合金スクラップは-11.9%の5,013 t。

【見通し】【自動車】

9月の自動車生産が+79.3%。10月国内販売台数が前年比+19.7%、2か月連続生産、販売共に大幅増加。

ようやく大幅に回復してきた。今後このペースで挽回生産に続くか注視。

【アルミ圧延・押出品生産数】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は前年比-7%の14万9,973 tで6か月連続マイナス。住宅着工の増加により来月以降に期待。

【アルミニウム2次合金、同合金地金等生産実績】

前年比+5.8%の6万6,472 tで13か月ぶりプラス。

出荷は+5.9%の6万7,673 tで13か月ぶりプラス。

(次頁へつづく)

中国のゼロコロナ政策の影響は残るもの急激な自動車生産の回復により今後、自動車の挽回生産が進行するものと期待される。

・アルミ輸出は中国向けや円安を受けてスクラップが増加。

・アルミ輸入は内需回復から合金スクラップ以外増加。

【スクラップ景況予想】

流通（一次問屋）在庫は欧米の金融引き締め策からLME価格が2,200-2,400ドルと低位安定。自動車生産や住宅着工の低迷から入荷も少なそう。

需要面に関しては中国のゼロコロナ政策の影響は残るもの急激な自動車生産の回復により今後、自動車の挽回生産が進行するものと期待される。

【LME・為替予想】

今月は以下の項目に左右される。①米欧の金融政策
②中国のゼロコロナ対策（ロックダウンなど）の動向。

①に関しては、米国に関してパウエル議長が米連邦公開市場委員会（FOMC）後の会見で政策金利の終着点（ターミナルレート）がFRBの従来予想より高くなる可能性を示唆し、早期の利上げ停止も否定したことから次回も0.75%の利上げを行うのではないかと見られる。

ECB（欧州）に関しては、英イングランド銀行（中央銀行）も0.75%の利上げを決め、利上げ幅を前回（0.5%）から引き上げたことからECBもこれに続くのではないかと見られる。

②に関しては、「中国共産党大会2022」でゼロコロナ継続を示唆されたことからしばらく継続の様子。

これらを踏まえた9月のアルミ価格は2,100-2,300ドル（セツル）との予想。

ドル円値は140円～145円（TTM）台を予測。

スクラップ購買価格に関しては据置から+5円程度と予想している。

（「10月のアルミ概況および11月の見通し」おわり）